

フィンランド教育改革の課題と日本の中学校理科

原田研究室 342333 森平翔威

PISA 2003年

1. はじめに

フィンランドは、OECD が実施する国際学力調査 PISA の 2000、2003 年において極めて優れた成績を収め、その後も「フィンランド式教育」として国内外で高く評価されてきた。フィンランドが好成績を収めた当時、国内外の多くの教育関係者がその教育方法に強い関心を寄せ、実際に現地を訪れて教育の在り方を学ぼうとした。現在でもフィンランドの学習方法や教育制度を称賛する書籍や論文は数多く存在する、特に 1970 年代および 1990 年代に実施された教育改革は、その好成績の要因としてしばしば言及されている。

しかし近年、フィンランドの PISA における成績は初期の水準から下降傾向にあり、かつての「教育先進国」としての地位に陰りが見え始めている。フィンランド教育文化省が発行した 2023、2024 年の building レビューにおいても 2000 年代から始まった学力低下は 2024 年になっても長期的な傾向で鈍化の兆しは見られないと述べられている。

このような学力低下の背景には、1990 年代以降に進められた生徒中心・探求型の教育方法が一つの要因の可能性がある。つまり、当初は「生徒の主体性を伸ばす」と期待された探求型学習が、結果的に基礎的学力の低下を招いた可能性がある。

以上を踏まえ、本研究ではフィンランド教育改革の内容とその課題を検討し、特に近年重視されている探求型（生徒主導型）学習に着目し、日本の中学校理科教育にもすでに導入されている探究型（生徒主導型）学習に着目し、その生じている／生じうる課題を検討することを目的とする。

2. 研究計画

本研究は以下の手順で進める。

(1) フィンランド教育改革の分析。

1970 年代および 1990 年代に実施された教育改革の内容を中心に、フィンランドの学校教育制度の特徴を整理する。あわせて PISA における成果の推移を検討し、教育改革と学力低下の関連性について、フィンランド政府の教育レビューや先行研究を基に考察する。

(2) 生徒主導型学習の先行研究の検討。

(3) 日本の中学校理科教育との比較研究。

3. 参考文献

・Kalenius, Aleksi. (2023). Sivistyskatsaus 2023. Undervisnings- och kulturministeriets publikationer 2023:3, Undervisnings- och kulturministeriet.

https://julkaisut.valtioneuvosto.fi/bitstream/handle/10024/164564/OKM_2023_3.pdf?sequence=1&isAllowed=y

読解力	数学的リテラシー	科学的リテラシー
1 フィンランド	1 香港	1 フィンランド
2 韓国	2 フィンランド	2 日本
3 カナダ	3 韓国	3 香港
4 オーストラリア	4 オランダ	4 韓国
5 リヒテンシュタイン	5 リヒテンシュタイン	5 リヒテンシュタイン
6 ニュージーランド	6 日本	6 オーストラリア
7 アイルランド	7 カナダ	7 マカオ
8 スウェーデン	8 ベルギー	8 オランダ
9 オランダ	9 マカオ	9 チェコ
10 香港	10 スイス	10 ニュージーランド
11 ベルギー	11 オーストラリア	11 カナダ

